

へいせい29ねんど だい5かい くにたちし けいかくさくていいんかいぎじろく  
平成29年度 第5回 国立市しょうがいしゃ計画策定委員会議事録

へいせい29ねん8がつ31にち  
平成29年8月31日

にち じ へいせい29ねん8がつ31にち もくようび ごごろくじ  
日 時 平成29年8月31日(木曜日)午後6時より

ば しょ くにたちしやくしょ3かいだい1・2かいぎしつ  
場 所 国立市役所3階第1・2会議室

しゅつ せき みついいん たかはしいん なかやまいん こばやしいん  
出 席 三井委員 高橋委員 中山委員 小林委員

ほんだいいん かねこいいん くにもといいん たいらいいん  
本多委員 金子委員 國本委員 平委員

いのうえおぶざーばー  
井上オブザーバー

けつ せき わたいん まるやまいん  
欠 席 綿委員 丸山委員

じむきょく しょうがいしゃしえんか ほしのかちよう  
事務局 しょうがいしゃ支援課 星野課長

かとうそうだんしえんかかりちよう よしだてあて きゅうふかりちよう  
加藤相談支援係長 吉田手当・給付係長

ふくしそむか せきかちよう  
福祉総務課 関課長

たいらふくいんちよう だい かいくにたちし けいかくさくていいんかい ひら おも  
【平副委員長】 では、第5回国立市しょうがいしゃ計画策定委員会を開きたいと思います。

さいしょ ほんじつ わたいんちよう きゅうきよわたくしごと やす じょうれい もと ぶくいんちよう  
まず最初に、本日、綿委員長が急遽私事でお休みということで、条例に基づきまして、副委員長

というので、きょうは私が司会をすることになっております。御了承ください。綿先生のように

うまくいかないと思います。きっと綿あめのようになってしまいますので、皆さんの御協力で

うまくやっていきたいと思います。よろしくお願いします。

やく じかん かいぎ つい おも じかん きゅうけい い  
また、約2時間を会議に費やしたいと思いますが、1時間たちましたら休憩を入れていくと

いうことでいつもどおりやっていきたいと思いますが、よろしくお願いします。

さいしょ じむきょく はいふしりよう かくにん ねが  
それでは最初に、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

じむきょく みな いそが なつ あき ひ こ にち  
【事務局】 皆さん、お忙しいところ、また、夏なのか、秋なのかというちょっと冷え込んだ1日に

なっていました。天候も、足元も悪い中、御参加、御出席いただきましてありがとうございます。

それでは、先ほど平副委員長からもお話がございましたが、綿委員長が急な私用ということで、

本日やむなく御欠席という御連絡をいただいております。また加えて、丸山委員もどうしても外せな

い用件が重なってしまったということで、本日御欠席という御連絡をいただいております。小林委員

につきましては、今のところまだ御連絡をいただいていないので、若干おくれているといったところ

かと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、お手元に事前に送らせていただきました資料を御用意ください。最初に、第4回、前回

の委員会の議事録、委員の皆様のご確認を送らせていただいております。後ほど内容の御確認を願

いいたします。

次に、資料1といたしまして、A4横長でとした基本理念、施策目標、施策目標ごとの取り組み

項目に関する第二次案となっております。こちらを送らせていただいております。

次に、資料②といたしまして、A4の縦長でとしたもので、ちょっと厚くなっておりますが、本日

の本資料として送らせていただいております。

大変申しわけございません。一部に誤字、脱字がありましたので、本日、差し替え分を机上に用意

させていただきました。お手数をおかけいたしますが、25ページ、26ページ、30ページについて差

し替えをお願いいたします。なお、誤字、脱字につきましては、25ページで、「保健、医療に関する

充実を支えます」の冒頭に③と入るべきところ、この③が消えてしまっておりました。次に、下の「し

ょうがいのある子どもの生活を支えるため、個々のニーズに合わせた福祉サービスを充実させます」

のところ<sup>ほんらい</sup>が③となっておりますが、本来は④となります。③、④と振られるところを、③が抜けてしまったために後段<sup>こうだん</sup>がずれてしまったということです。あわせて、次ページ<sup>じ</sup>、26ページも同様に前番号<sup>どうよう まえばんごう</sup>がずれており、「防災対策を進めます」の④が⑤になります。防犯<sup>ぼうはん</sup>についての⑤が⑥<sup>かたち</sup>という形になっております。

それと、30ページにつきましても、中段<sup>ちゆうだん</sup>、「しょうがいの特性<sup>とくせい</sup>に応じた就労<sup>おう</sup>を支えます<sup>しゅうろう ささ</sup>」が①と  
なっていますが、これが④に、次の「しょうがいのある方の福祉<sup>かた ふくしてきしゅうろう</sup>的就労<sup>ささ</sup>を支えます」が②と  
なっているのが⑤の誤り<sup>あやま</sup>でございました。差しかえ方<sup>さ</sup>、よろしくお願い<sup>かた</sup>いたします。

それともう1点、23ページに戻<sup>てん</sup>っていただきまして、一番下段<sup>もど</sup>のところの四角囲み<sup>いちばんかだん</sup>、「関連する<sup>しかくがこ</sup>  
計画<sup>かんれん</sup>」で使用している略記<sup>けいかく</sup>の2段目<sup>しょう</sup>で、育てるとい<sup>りゃっき</sup>う漢字<sup>だんめ</sup>を使って第三次国立市子ども総合計画<sup>そだ</sup>とし  
ておりますが、後段<sup>こうだん</sup>のほうでは子どもの子<sup>こ</sup>の字<sup>こ</sup>になっております。こちらの育てるとい<sup>そだ</sup>う漢字<sup>かんじ</sup>を子ども<sup>こ</sup>  
の子<sup>こ</sup>の字<sup>こ</sup>に訂正<sup>ていせい</sup>していただければと思います。大変申しわけ<sup>おも</sup>ございませんでした。お手元<sup>たいへんもつ</sup>で  
御修正<sup>ごしゅうせい</sup>方<sup>かた</sup>、よろしくお願い<sup>ねが</sup>いたします。

なお、ほかに乱丁<sup>らんちよう</sup>、落丁<sup>らくちよう</sup>などないか御確認<sup>ごかくにん</sup>をお願い<sup>ねが</sup>します。不備<sup>ふび</sup>、不足<sup>ふそく</sup>、乱丁<sup>らんちよう</sup>、落丁<sup>らくちよう</sup>などござ  
いまして、挙手<sup>きょしゅ</sup>にてお知らせ<sup>し</sup>いただければと思います。よろしくお願い<sup>ねが</sup>いたします。

【平副委員長<sup>たいらふくいいんちよう</sup>】事務局<sup>じむきょく</sup>から資料<sup>しりよう</sup>の説明<sup>せつめい</sup>がありました。説明<sup>せつめい</sup>のあったページ<sup>さ</sup>の差しかえをよろしくお  
願い<sup>ねが</sup>いたします。また、お手元<sup>てもと</sup>を確認<sup>かくにん</sup>していただきまして、不備<sup>ふび</sup>、不足<sup>ふそく</sup>、何かありまして挙手<sup>きょしゅ</sup>をお  
願い<sup>ねが</sup>いたします。

【井上オブザーバー<sup>いのうえ</sup>】 お願い<sup>ねが</sup>があります。6月19日<sup>がつ にち</sup>、国立市しょうがいしゃ計画策定委員会<sup>くにたちし</sup>が終わ<sup>けいかくさくていいいんかい</sup>

った後に、議事録、CDをくださいと言いました。6月21日にわかりやすい議事録をもらいに行きました。わかりやすい議事録をもらいました。議事録のCDはあげられませんかと言われました。議事録のCDをもらえませんでした。CDをもらえなくて困ります。会議が難しいから、聞いたり、見たり、読んだりして考えます。勉強しています。だから、CDが欲しくて、8月10日に星野さんと★加藤さんと話をしました。わかりやすい議事録について、星野さんと話しをしてと言われました。その日に議事録のCDをもらえました。すぐにももらえなかったのは本当に困ります。だから、録音をしたいです。いいですか。

【平副委員長】 録音についてはどうでしょうか。事務局、よろしく願います。

【事務局】 CDを御用意してお渡しするということで対応させていただければと思いますので、今後とも、会議が終わって1週間から10日いただければCD化したものをお渡しできると思います。今回は済みません、こちらの連絡不行き届きでお渡しするまでに1カ月、2カ月かかってしまいましたが、今後そういった形で御対応させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【井上オブザーバー】 連絡不行き届きと言いますが、こちらからお願いして、そのときにわかりましたと言われまして、その後に窓口で、井上さんはわかりやすい議事録が欲しいのかと勘違いをして渡せなかったと言われたんですが、窓口では、ほかの委員さんたちにも渡してしまっているし、もうこれ以上、CDはつくれませんという言い方をされて、議事録であるとか、音声CDであるとか、細かいことは言われなかったんですね。だから、では音声CDはオブザーバーだからもう焼けないのかと思って、オブザーバーだから焼けないんですか、オブザーバーだからということですかと言ったら、

そこは否定されなかったと思います。

やっぱり市役所がそういう姿勢だから、井上さんは議事録のCDを随分長いこと聞けない状態でした。やっぱりその姿勢は困るので、今回録音したいですという申し出をさせていただいたんです。

その点についてはどうでしょうか。

【事務局】 今後の会議につきましては、1週間ないし10日の間にCDを御用意したいと考えて

おりますので、それでいかがでしょうか。

【井上オブザーバー】 CDを出す出さないじゃなくて、市役所の事務局の方のそういった姿勢についてどうだったかと伺っているんです。

【事務局】 その点につきましては、こちらのほうの確認不足ということで時間をとらせてしまったことについてはおわびを申し上げます。今後については、繰り返しになりますが、1週間ないし10日のうちにCDのほうでお渡ししたいと考えております。いかがでしょうか。

【井上オブザーバー】 そうですね。本人の話をしっかり聞いていただけなかったのは一番大きいか  
と思います。今後は、井上さんの声をしっかり聞いて、確認して対応していただきたいと思います。

【井上オブザーバー】 よろしくお願いします。

【平副委員長】 では、事務局、よろしく願いいたします。井上さん、よろしいでしょうか。

【井上オブザーバー】 よろしいです。

【平副委員長】 それでは、前回の委員会の議事録につきまして、事前に事務局から送っていただ  
いています。内容の確認、修正する点などがありましたら伺いたいと思います。

【井上オブザーバー】 8月31日木曜日、しょうがいしゃ計画議事録を直してほしいです。26ペー

ジの一番下です。目標E、「選挙で漢字が書けなくて困ります」ではなくて、「選挙で字が書けなく  
て困ります」です。「漢字が読めなくて困ります」ではなくて、「字が読めなくて困ります」です。

【井上オブザーバー】 漢字ではなくて、字です。

【平副委員長】 では、確認します。26ページ、一番最後の行ですけれども、そこに「選挙で漢字  
が」と、漢字と出てきていますけれども、それを文字の字だけにしてほしいということで、井上さん、  
よろしいでしょうか。

【井上オブザーバー】 よろしいです。

【平副委員長】 ということで訂正をお願いいたします。ほかにはどうでしょうか。

それでは、前回の議事録については井上さんの部分だけということでよろしいでしょうか。

それでは、第4回委員会の議事録につきましては、市のホームページに公開されることとなります  
ので、よろしくをお願いいたします。

続いて、次第の2、基本理念等の第二次案について事務局より説明がございます。

【事務局】 それではお手元に、資料①国立市しょうがいしゃ計画（素案）第二次案を御用意いただ  
ければと思います。前回の委員会では、基本理念、施策目標、施策目標ごとの取り組み項目につい  
て御検討いただきました。また、その後、委員から改めて御意見の提出等をいただいたものを取り  
まとめたものが今回お配りしております本資料となります。

資料中、ちょうど1ページ目を見てくださいと、事務局案のほかに、いただいた御意見をA案、

あん ひょうき こうもく へいき うえ じむぎょく ほんじつ  
B案といった表記で項目ごとに併記をさせていただいております。その上で事務局より、本日、

だいにじあん げだん かじょ しゅうせい あらた きさい  
第二次案として下段に、加除、修正したものを改めて記載させていただきました。

きほんりねん ぜんかい いいんかい ぎろん なか こいけん おお  
基本理念につきましては、前回の委員会の議論の中で御意見が多かったソーシャルインクルージョ  
ンというキーワードを後段に加えております。これは1つ1つの項目を議論する中で、ソーシャルイ  
ンクルージョンというキーワードをたびたび取り上げられた中で、前回、綿委員長から基本理念に加  
えてはどうかという御意見を 承 ったことを受けて、そちらを修正しているところでございます。

しさくもくひょう どうよう ひらがなひょうき ひょうげん かんじひょうき  
また、施策目標についても同様ですが、平仮名表記にしていた、くにたちという表現を漢字表記  
で国立市に改めました。また、基本理念に関する解説文を理念の前に置かせていただいています。こ

あらた きほんりねん ほんぶん つづ かいせつ ぶんしょう こうせい か  
れは改めて、まず基本理念の本文があり、それに続いてこれを解説する文章があるという構成に変  
えています。よりわかりやすいように配慮をさせていただくということで、前回の委員会での議論を  
はんえい ぶんしょう かじょ しゅうせい  
反映させて、文章のほうも加除、修正をさせていただいております。

しさくもくひょう ぜんかい ぎろん ぶ こうせい じゅんぱん いちぶへんこう おお  
施策目標につきましても前回の議論を踏まえまして、構成の順番を一部変更しております。大き  
く変更させていただいた点といたしましては、施策目標のBとCを入れかえております。経済的な

じりつ かん こうもく つど あそ まな はたら うつ ぜんかい いいんかい さい ぎろん  
自立に関する項目は、集う／遊ぶから学ぶ／働くへ移しました。前回の委員会の際にも議論いただい  
ないよう ぶ うえ てん ぜんかい じむぎょくあん おお へんこう  
た内容を踏まえた上で、この点については前回の事務局案から大きく変更しております。したがって、

しさくもくひょう まな はたら か けいざいてき じりつ かん ぶく しさく  
施策目標Bは学ぶ／働くに変わり、経済的な自立に関するものを含むとさせていただきます。施策

つど あそ かたち こうせい しさくもくひょう と く こうもく ぶんまつ  
Cが集う／遊ぶという形で構成をしております。施策目標ごとの取り組み項目については、文末で

じゅうじつ はか かたち ひょうげん おお いいん こいけん じゅうじつ  
充実を図りますという形の表現が多かったんですが、これは委員からの御意見がありまして、充実

させますという形におおむね改めております。また、項目によっては、しょうがいのある方のといった表現を追記させていただいているところです。

以上、前回の委員会での議論、また委員会後に事務局にお寄せいただいた意見等を踏まえて、事務局からの第二次案という形で本日資料としてお出ししております。御通知の際に事前に御案内をさせていただきますが、こちらの第二次案について、特にこういった変更、修正をという御意見が何かある場合は8月24日までに事務局に御一報いただきたい旨記載をさせていただきました。特に事務局のほうに事前に御連絡はいただいておりますので、本日、冒頭このところを御確認いただければ、この枠組みに沿って次の議題に進めさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いたします。

事務局からは以上です。

【平副委員長】 それでは、事務局からの資料に基づいて、前回委員会の議論を踏まえた第二次案の説明があったわけです。基本理念、施策目標、施策目標ごとの取り組みの項目については、この部分は一括してよろしいでしょうか。8月24日までにはなかったということですが——三井さん、よろしくお願いたします。

【三井委員】 済みません、8月24日までに二次案に関しての修正、訂正をするということだったわけですね。

【事務局】 通知の中に御案内を。

【三井委員】 済みません、確認しなかったもので、今回この場で修正を提出しようと思って持

つてきましたと三井委員のほうからはあります。

【三井委員】 全ての部分について、二次案ではない形に修正をする提案があります。

【平副委員長】 全てのというのは、どの部分でしょうか。

【三井委員】 済みません、24日までにとこのを把握していませんでしたので、では一番最初、基本

理念の第二次案の修正をお願いしたい。しょうがいのある人が当たり前前に暮らすソーシャルインク

ルーション、みんな一緒にのまち国立の実現というふうに修正していただきたいんです。

どんどん行きますけれども、いいですか。

【平副委員長】 ではまず基本理念だけで区切りたいと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

井上委員からもありますでしょうか。

【井上オブザーバー】 井上さんに至っては、その24日の紙が来ていなかったもので、きょう言えると

思って準備してきていましたので、発表します。

【井上オブザーバー】 しょうがいしゃが自分で選び、ずっと地域で暮らせるまち国立の実現にした

いです。自分で選びという言葉が大事です。住むところを自分で選びます。施設に入りたくないです。

ひとり暮らしがしたいです。これからもずっと地域で住みたいです。しょうがいがある子どもたちが

大人になってもずっと地域で暮らすまちにしたいです。

【平副委員長】 今、基本理念につきましてお二方から意見が出ておりますけれども、まずその検討

をしていくために、ちょっと板書ができれば皆さんも全員で参加できると思いますけれども、その前

に、基本理念についてほかに御意見のある方はいらっしゃいますか。

【中山委員】 私<sup>わたし</sup>も三井さん<sup>みつい</sup>や井上さん<sup>いのうえ</sup>と同じように、8月24日<sup>おな</sup>までに意見<sup>がつ</sup>をとというお手紙<sup>か</sup>はもら<sup>いけん</sup>っていないので、素案<sup>そあん</sup>の第二次案<sup>だいにじあん</sup>について申し上げ<sup>もう</sup>たいことがある<sup>あ</sup>んですけども、この素案<sup>そあん</sup>の中<sup>なか</sup>にはしょうがいしゃ<sup>きさい</sup>がというふう<sup>きさい</sup>に記載<sup>きさい</sup>はされているんですけども、できたら<sup>すべ</sup>、全てのしょうがいし<sup>すべ</sup>ゃのとか<sup>すべ</sup>、全ての何<sup>なん</sup>らかのしょうがい<sup>も</sup>を持つもの<sup>ひょうげん</sup>のという表現<sup>か</sup>に変<sup>おち</sup>えていただきたいと思<sup>おも</sup>っています。

【平副委員長】 わかりました。今<sup>いま</sup>3人<sup>にん</sup>の方<sup>かた</sup>から出てきて<sup>で</sup>いるんですけども、事務局<sup>じむきょく</sup>の方<sup>かた</sup>にその3つ<sup>いけん</sup>の意見<sup>ばんしょ</sup>を板書<sup>ばんしょ</sup>して<sup>おち</sup>いただきたいと思<sup>おも</sup>いますので、ちょっとお待<sup>ま</sup>ちいただけます<sup>ま</sup>でしょうか。

まず、提案<sup>ていあん</sup>された方<sup>かた</sup>、自分<sup>じぶん</sup>の御提案<sup>ごていあん</sup>の言葉<sup>ことば</sup>についてはこれ<sup>こ</sup>でよろしい<sup>ば</sup>でしょうか。

ありがとうございます。こう<sup>ていあん</sup>いう提案<sup>う</sup>を受けて<sup>かた</sup>いますけれども、ほか<sup>かた</sup>の方<sup>みつい</sup>はどう<sup>みつい</sup>でしょうか。三井<sup>みつい</sup>さん<sup>みつい</sup>と井上<sup>いのうえ</sup>さん<sup>いのうえ</sup>は、一番<sup>いちばん</sup>最初<sup>さいしょ</sup>の1行<sup>ぎょうめ</sup>目の「市民<sup>しみん</sup>の誰<sup>だれ</sup>もが互<sup>たが</sup>いを大切<sup>たいせつ</sup>にし合<sup>あ</sup>い」はそのま<sup>ま</sup>までよろしい<sup>あ</sup>んでしょうか。それ<sup>さくじょ</sup>は削除<sup>さくじょ</sup>する<sup>さくじょ</sup>ということ<sup>さくじょ</sup>でしょうか。

【中山委員】 自分<sup>じぶん</sup>のほう<sup>だいじょうぶ</sup>は大<sup>だい</sup>丈夫<sup>じょうぶ</sup>です。

【平副委員長】 中山<sup>なかやま</sup>さん<sup>なかやま</sup>からは、一番<sup>いちばん</sup>最初<sup>さいしょ</sup>の1行<sup>ぎょうめ</sup>目<sup>しゅ</sup>、「市民<sup>しみん</sup>の誰<sup>だれ</sup>もが互<sup>たが</sup>いを大切<sup>たいせつ</sup>にし合<sup>あ</sup>い」という<sup>あ</sup>のはそのま<sup>ま</sup>ま置<sup>お</sup>いても構<sup>かま</sup>わない<sup>かま</sup>という御意見<sup>ごいけん</sup>でした。三井<sup>みつい</sup>さん<sup>みつい</sup>、井上<sup>いのうえ</sup>さん<sup>いのうえ</sup>からは、1行<sup>ぎょうめ</sup>目<sup>しゅ</sup>については<sup>あ</sup>それを削除<sup>さくじょ</sup>して、この部分<sup>ぶぶん</sup>からスタート<sup>かたち</sup>する<sup>かたち</sup>という形<sup>かたち</sup>で、基本<sup>きほん</sup>理念<sup>りねん</sup>の一番<sup>いちばん</sup>最初<sup>さいしょ</sup>と<sup>い</sup>いますか、それ<sup>さくじょ</sup>に<sup>さくじょ</sup>なる<sup>かたち</sup>という形<sup>かたち</sup>になり<sup>かたち</sup>ます。

【國本委員】 今<sup>いま</sup>、お二<sup>ふた</sup>方<sup>かた</sup>の意見<sup>いけん</sup>として、1行<sup>ぎょうめ</sup>目<sup>しゅ</sup>の「市民<sup>しみん</sup>の誰<sup>だれ</sup>もが互<sup>たが</sup>いを大切<sup>たいせつ</sup>にし合<sup>あ</sup>い」という文言<sup>もんごん</sup>は不要<sup>ふよう</sup>だ<sup>ふよう</sup>という発言<sup>はつげん</sup>でござ<sup>わたし</sup>いませ<sup>わたし</sup>ただけ<sup>わたし</sup>れども、私<sup>わたし</sup>として<sup>わたし</sup>は別<sup>べつ</sup>にあ<sup>さ</sup>っても差<sup>さ</sup>し支<sup>つか</sup>えな<sup>つか</sup>い<sup>つか</sup>というか、あ<sup>つか</sup>っ

たほうがいいと感じるんですけども、あえて削除したいという思いが何かありましたら教えていた  
だきたいと思えます。

【三井委員】 立つ地点がしょうがいしゃだということを強調したいというところ、しょうがいし  
ゃ計画なのでということです。

【平副委員長】 國本さん、よろしいでしょうか。

【國本委員】 この基本理念に立つ立ち位置のところを、しょうがいしゃというところを強めたいと  
いうことですね。その御意向はわかりました。

【平副委員長】 それでは、もう1人、井上さん、どうでしょうか。

【井上オブザーバー】 しょうがいしゃが自分で選び、ずっと地域で暮らせるまち国立の実現にした  
いです。「市民の誰もが互いを大切にし合い」——入れていいです。

【井上オブザーバー】 入れていいそうです。本人はこう言っているんですけども、流れとしても  
ともと最初に、この紙に書いてあるんですけども、〇案でしょうがいしゃというふうな形で書いて  
いて、その流れももちろんあったんですけども、もともとこの計画自体がしょうがいしゃ計画とい

うこともあったので、地域福祉計画で市民全体ということならわかるんだけど、地域福祉計画の  
ほうにも参加している上では、そこはやっぱり国立市民全体でどういうふうにしようかということ

かんが 考えているということだったから、ではしょうがいしゃ計画では、しょうがいしゃの人たちを中心

かんが に考えていくという考え方が必要だろうと思ったので、やっぱり最初に重立ってくるのはしょうが

いはしゃという言葉かなというふうにし話合っていたので、市民全体ということがまず先に来るのでは

なく、しょうがいしゃという言葉で一緒に考えていました。

【三井委員】 三井絹子いわく、これはしょうがいしゃ計画なので、しょうがいのある人がというふうに始まるのが筋ではないかと――筋でしょう。

【三井委員】 この計画の中でいろいろ決めていくことが、しょうがいを持つ人たちがどういうふうにしてやって地域の中で暮らしていけるかということを決めていくものだと思うので、一番最初にしょうがいがある人がというふうに書いていくのが自然ではないかと言っております。

【平副委員長】 ただ、ここに出てきた言葉は、きっと前提として共生という言葉がどこかにあったと思うんです。その言葉を生かしていく上で市民とともにというのが出てきたのだと推測するんですけれども。

【事務局】 それでは、事務局のほうで修正案、最初の一次案も含めて、こういった基本理念を組ませていただいた背景は、2ページで、まず「基本理念とは、計画のもとになる“一番大切にすること”です」と。この点につきましては、今御意見をいただいた委員の皆様共通でお考えいただいているところかと思えます。

「国立市では、平成17年に「しょうがいしゃがあたりまえに暮らすまち宣言」（以下「あたりまえ宣言」といいます。）を行い、28年には「誰もがあたりまえに暮らすまちにするための『しょうがいしゃがあたりまえに暮らすまち宣言』の条例」（以下「あたりまえ条例」といいます。）を施行しています。

この、「あたりまえ宣言」から「あたりまえ条例」施行までの10年余の取り組みは、まさにこれ

からの<sup>くにたちし</sup>国立市における<sup>ふくし</sup>しょうがい福祉の<sup>すす</sup>進むべき<sup>ほうこう</sup>方向を<sup>さ</sup>指し<sup>しめ</sup>示すものと<sup>かんが</sup>考え、<sup>じょうれい</sup>条例の<sup>まえぶん</sup>前文を<sup>よ</sup>読み<sup>と</sup>解

き、<sup>じょうき</sup>上記のとおり<sup>くにたちし</sup>国立市<sup>けいかく</sup>しょうがいしゃ計画の<sup>きほんりねん</sup>基本理念を<sup>さだ</sup>定めることと<sup>し</sup>しました」と。これについて

は<sup>ぜんかい</sup>前回にも<sup>こせつめい</sup>御説明を<sup>さ</sup>差し<sup>あ</sup>上げた<sup>ぜんかい</sup>と<sup>すこ</sup>おりです。<sup>ぶんしょう</sup>ここから<sup>か</sup>前回と<sup>おも</sup>少し<sup>おも</sup>文章が<sup>おも</sup>変わっているかと思<sup>おも</sup>います

が、「これは、<sup>じょうれい</sup>あたり<sup>かてい</sup>まえ<sup>そんちよう</sup>条例<sup>わたし</sup>づくりの<sup>わたし</sup>過程でも<sup>ぬ</sup>尊重<sup>き</sup>された「<sup>わたし</sup>私たちの<sup>ぬ</sup>ことを<sup>き</sup>私たち<sup>ぬ</sup>抜きに<sup>き</sup>決め

ないで」という<sup>かんが</sup>考えを<sup>はいけい</sup>背景に、<sup>ひと</sup>しょうがいの<sup>ひと</sup>ある人も<sup>つど</sup>ない人も<sup>まな</sup>あたり<sup>あそ</sup>まえに<sup>はたら</sup>集い、<sup>はたら</sup>学び、<sup>はたら</sup>遊び、<sup>はたら</sup>働

き、<sup>す</sup>住まい、<sup>いこ</sup>憩い、<sup>あ</sup>ともに<sup>はぐく</sup>出会い、<sup>あ</sup>育<sup>しゃかい</sup>み<sup>じつげん</sup>合<sup>めざ</sup>える、<sup>めざ</sup>社会の<sup>めざ</sup>実現を<sup>めざ</sup>目指すという<sup>ぶんぶん</sup>ものです」と。この部分

の<sup>ぶんぶん</sup>キーワードにつ<sup>ぶんぶん</sup>きましては、<sup>じょうれい</sup>条例の<sup>ぜんぶん</sup>前文で<sup>つか</sup>使<sup>ぶんぶん</sup>わせて<sup>ぶんぶん</sup>いただ<sup>ぶんぶん</sup>いている<sup>ぶんぶん</sup>もの<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>使用<sup>ぶんぶん</sup>している<sup>ぶんぶん</sup>ところ<sup>ぶんぶん</sup>で

ござ<sup>ぶんぶん</sup>います。そこ<sup>ぶんぶん</sup>から、<sup>ぶんぶん</sup>1<sup>ぶんぶん</sup>ペー<sup>ぶんぶん</sup>ジに<sup>ぶんぶん</sup>戻<sup>ぶんぶん</sup>ります<sup>ぶんぶん</sup>が、<sup>ぶんぶん</sup>「<sup>ぶんぶん</sup>市民<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>誰<sup>ぶんぶん</sup>も<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>互<sup>ぶんぶん</sup>いを<sup>ぶんぶん</sup>大<sup>ぶんぶん</sup>切<sup>ぶんぶん</sup>にし<sup>ぶんぶん</sup>合<sup>ぶんぶん</sup>い、<sup>ぶんぶん</sup>しょう<sup>ぶんぶん</sup>がいの

<sup>ぶんぶん</sup>ある<sup>ぶんぶん</sup>人も<sup>ぶんぶん</sup>ない<sup>ぶんぶん</sup>人も<sup>ぶんぶん</sup>あ<sup>ぶんぶん</sup>たり<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>えに<sup>ぶんぶん</sup>暮<sup>ぶんぶん</sup>らす、<sup>ぶんぶん</sup>自<sup>ぶんぶん</sup>立<sup>ぶんぶん</sup>と<sup>ぶんぶん</sup>共<sup>ぶんぶん</sup>生<sup>ぶんぶん</sup>・<sup>ぶんぶん</sup>ソ<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>シ<sup>ぶんぶん</sup>ャ<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>イ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>ク<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>ジ<sup>ぶんぶん</sup>ョ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>ち<sup>ぶんぶん</sup>国<sup>ぶんぶん</sup>立<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>実<sup>ぶんぶん</sup>現<sup>ぶんぶん</sup>」

とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>文<sup>ぶんぶん</sup>章<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>つ<sup>ぶんぶん</sup>く<sup>ぶんぶん</sup>ら<sup>ぶんぶん</sup>せ<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>だ<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>次<sup>ぶんぶん</sup>第<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>す。

1<sup>ぶんぶん</sup>ペー<sup>ぶんぶん</sup>ジ<sup>ぶんぶん</sup>目<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>1<sup>ぶんぶん</sup>行<sup>ぶんぶん</sup>目<sup>ぶんぶん</sup>、<sup>ぶんぶん</sup>2<sup>ぶんぶん</sup>行<sup>ぶんぶん</sup>目<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>前<sup>ぶんぶん</sup>文<sup>ぶんぶん</sup>か<sup>ぶんぶん</sup>ら、<sup>ぶんぶん</sup>自<sup>ぶんぶん</sup>立<sup>ぶんぶん</sup>と<sup>ぶんぶん</sup>共<sup>ぶんぶん</sup>生<sup>ぶんぶん</sup>・<sup>ぶんぶん</sup>ソ<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>シ<sup>ぶんぶん</sup>ャ<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>イ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>ク<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>ジ<sup>ぶんぶん</sup>ョ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>こ

れ<sup>ぶんぶん</sup>か<sup>ぶんぶん</sup>ら<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>しょう<sup>ぶんぶん</sup>がい<sup>ぶんぶん</sup>福<sup>ぶんぶん</sup>祉<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>進<sup>ぶんぶん</sup>め<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>く<sup>ぶんぶん</sup>上<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>大<sup>ぶんぶん</sup>き<sup>ぶんぶん</sup>な<sup>ぶんぶん</sup>キ<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>ワ<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>ド<sup>ぶんぶん</sup>に<sup>ぶんぶん</sup>な<sup>ぶんぶん</sup>る<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>は<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>な<sup>ぶんぶん</sup>か<sup>ぶんぶん</sup>とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>こ<sup>ぶんぶん</sup>と<sup>ぶんぶん</sup>こ<sup>ぶんぶん</sup>う

い<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>文<sup>ぶんぶん</sup>章<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>つ<sup>ぶんぶん</sup>く<sup>ぶんぶん</sup>ら<sup>ぶんぶん</sup>せ<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>だ<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>と<sup>ぶんぶん</sup>こ<sup>ぶんぶん</sup>ろ<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>す。あ<sup>ぶんぶん</sup>く<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>も<sup>ぶんぶん</sup>しょう<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>あ<sup>ぶんぶん</sup>る<sup>ぶんぶん</sup>方<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>中<sup>ぶんぶん</sup>心<sup>ぶんぶん</sup>に<sup>ぶんぶん</sup>据<sup>ぶんぶん</sup>え<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>とい

う<sup>ぶんぶん</sup>考<sup>ぶんぶん</sup>え<sup>ぶんぶん</sup>方<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>つ<sup>ぶんぶん</sup>く<sup>ぶんぶん</sup>ら<sup>ぶんぶん</sup>せ<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>だ<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>お<sup>ぶんぶん</sup>り<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>す<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>で、<sup>ぶんぶん</sup>御<sup>ぶんぶん</sup>理<sup>ぶんぶん</sup>解<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>だ<sup>ぶんぶん</sup>け<sup>ぶんぶん</sup>れ<sup>ぶんぶん</sup>ば<sup>ぶんぶん</sup>と<sup>ぶんぶん</sup>思<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>す。

【<sup>ぶんぶん</sup>三<sup>ぶんぶん</sup>井<sup>ぶんぶん</sup>委<sup>ぶんぶん</sup>員<sup>ぶんぶん</sup>】<sup>ぶんぶん</sup>だ<sup>ぶんぶん</sup>か<sup>ぶんぶん</sup>ら、<sup>ぶんぶん</sup>そ<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>後<sup>ぶんぶん</sup>に<sup>ぶんぶん</sup>ソ<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>シ<sup>ぶんぶん</sup>ャ<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>イ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>ク<sup>ぶんぶん</sup>ル<sup>ぶんぶん</sup>ー<sup>ぶんぶん</sup>ジ<sup>ぶんぶん</sup>ョ<sup>ぶんぶん</sup>ン<sup>ぶんぶん</sup>み<sup>ぶんぶん</sup>ん<sup>ぶんぶん</sup>な<sup>ぶんぶん</sup>一<sup>ぶんぶん</sup>緒<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>ち<sup>ぶんぶん</sup>とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>言<sup>ぶんぶん</sup>語<sup>ぶんぶん</sup>を<sup>ぶんぶん</sup>入<sup>ぶんぶん</sup>れ<sup>ぶんぶん</sup>ま

し<sup>ぶんぶん</sup>た<sup>ぶんぶん</sup>と。こ<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>言<sup>ぶんぶん</sup>語<sup>ぶんぶん</sup>に<sup>ぶんぶん</sup>市<sup>ぶんぶん</sup>民<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>誰<sup>ぶんぶん</sup>も<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>意<sup>ぶんぶん</sup>味<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>入<sup>ぶんぶん</sup>っ<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>す。

【<sup>ぶんぶん</sup>平<sup>ぶんぶん</sup>副<sup>ぶんぶん</sup>委<sup>ぶんぶん</sup>員<sup>ぶんぶん</sup>長<sup>ぶんぶん</sup>】<sup>ぶんぶん</sup>とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>三<sup>ぶんぶん</sup>井<sup>ぶんぶん</sup>さ<sup>ぶんぶん</sup>ん<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>説<sup>ぶんぶん</sup>明<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>す。

【<sup>ぶんぶん</sup>三<sup>ぶんぶん</sup>井<sup>ぶんぶん</sup>委<sup>ぶんぶん</sup>員<sup>ぶんぶん</sup>】<sup>ぶんぶん</sup>も<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>し<sup>ぶんぶん</sup>補<sup>ぶんぶん</sup>足<sup>ぶんぶん</sup>し<sup>ぶんぶん</sup>て<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>い<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>す<sup>ぶんぶん</sup>か。つ<sup>ぶんぶん</sup>ま<sup>ぶんぶん</sup>り<sup>ぶんぶん</sup>現<sup>ぶんぶん</sup>状<sup>ぶんぶん</sup>の<sup>ぶんぶん</sup>中<sup>ぶんぶん</sup>で<sup>ぶんぶん</sup>み<sup>ぶんぶん</sup>ん<sup>ぶんぶん</sup>な<sup>ぶんぶん</sup>一<sup>ぶんぶん</sup>緒<sup>ぶんぶん</sup>とい<sup>ぶんぶん</sup>う<sup>ぶんぶん</sup>か、<sup>ぶんぶん</sup>誰<sup>ぶんぶん</sup>も<sup>ぶんぶん</sup>が<sup>ぶんぶん</sup>互<sup>ぶんぶん</sup>いを

大切にしよう、当たり前で暮らすということがまだ実現していない中で、この計画によってしょうが

いを持つ人が当たり前で暮らすということが実現できれば、それがみんな一緒、つまり市民の誰もが

ということを実現することになると考えましたということです。

ですから、まず最初に出てくる言葉にしょうがいのある人がというふうにして、その上で、しょう

がいのある人が当たり前で暮らす、それが実現することによってソーシャルインクルージョンみんな

一緒のまちというものが実現するんだと、そのような考え方で組み立てた理念の言葉です。

【平副委員長】 という御説明ですが、本多さん、何かございましたら。

【本多委員】 すごく難しいなと思って、悩みます。確かにしょうがいしゃの方たちの計画であると

思うんですけども、それを取り巻く市民のほうにやっぱりまだ理解が十分されていないし、そうい

ったことを考えると、市民の人たちへのメッセージも必要なんだなと思っていて、しょうがいしゃの

方だけをとりたててやるどころになかなかそのコンセンサスがとりにくいかもしれないということ

考えたときに、三井委員がおっしゃる後段でソーシャルインクルージョンみんなという言葉を入れ

ていただいたというところもちろんなら理解できるんですけども、1行目の市民の誰もが互いを大切

にするという中に、逆に言うと、市民の中にしょうがいのある人たちも当然入っているわけで、これ

があることがとりたててだめなのかとか、しょうがいしゃが最初に来なければだめなのかという

ところは、自分では結論が出にくいんですが、事務局案のこの1行目はそのままあっていいように

私は感じています。

【金子委員】 本多委員がおっしゃったのとほぼ一緒なんですけれども、「市民の誰もが」の中に、

市民の中にしょうがいを持っている方も当然含んでいるということなのでということと、あとは、やっぱりしょうがいのある方たちが暮らしやすくなるためにまず市民が考えていかなければだめでしょう。というところを言っていないと、多分最初に字面でしょうがいしゃというふうに入ってくると、しょうがいを持っていない方は関係ないんじゃないのという感覚にならないために、前段に置いてあるのはすごく意味があるのかなと感じています。

あと、本資料のほうの13ページに、まちづくりの中で、しょうがいを持つ方が地域で生活するために回りの人たちの協力が不可欠だということがきちっと説明されている中身も読むと、私はあってもいいかなという気がしています。

【小林委員】 済みません、おくれてきました。

私も、「市民の誰もが」の中には多分、目に見えないしょうがいしゃというのが実はいるんです。要は内部しょうがいというんですけれども、見た目では普通の人、だけれども実際はしょうがいしゃです。見た目ではわからないので、やっぱりそこはしょうがいしゃがというのは持ってきたほうがいいのかなと私は思うんです。

要は普通の人としょうがいが差別されるのは、去年施行された法律、解消法の中に——やっぱり合理的な配慮をしてあげる必要があるのかなと私たちしょうがいしゃは思うのですが、皆様の意見を教えてください。

【平副委員長】 では、中山さん、お願いできますか。

【中山委員】 まず、しょうがいしゃがというのは大切だと思いますけれども、市民の人ということ

も大切だと思います。私たちも当然市民であり、その中にしょうがいがある人もいるという考え方

で、「市民の誰もが」という1行目があってもいいのかなと私は思います。

【三井委員】 私は、まだまだ一般の市民の中に入れてくれないんです。どこでも排除されたり、差別

されたりします。だから、その現状が解決した上でないと、みんな一緒と、「誰もが互いを大切にし

合い」と、そうはならないと思います。その現状が解決しないということは、ソーシャルインクルー

ジョンにはなっていないということです。

【三井委員】 報告とあれを含めてなんですが、今、三井絹子さんが言ったことの中に、三井絹子は清化園

の跡地に自分が入れるお風呂が欲しいという陳情を国立市議会に出し、それが10年前です。市と、

その業者さんといろいろ話を進めて、この8月18日にやっとそこの温浴施設に入れることになり

ました。10年かかっています。やっぱりそれまでは特別なしょうがいを持っているというような形

でありまして、去年の差別解消法の後押しもあって、我が家から行きますと10分ぐらいで行けるそ

この温浴施設に8月18日、10年ぶりに入れるようになって、幸せな状況が起きています。それだ

け10年もかかる状態がまだまだあるんだという意味で、やはりしょうがいしゃがというふうに表現

したいというのが強い思いです。

【平副委員長】 時間も余りにも行っているので、事務局から何か意見がありましたら。

【事務局】 今回、既に前半に近い時間をお使いいただいているところかと思えます。ただ、計画に

あっては基本理念は非常に重要な部分でございますので、貴重な御意見を承れたかと思えます。

ただ、論点といたしましては、事務局が出しました第二次案、一次案から記載をさせていただいて

おりましたが、冒頭に「市民の誰もが互いを大切にし合い」という文言が入るか入らないか、しょうがいのある人がという表現から始まるかどうかといったところが一番大きな論点かと思えます。それと、ソーシャルインクルージョンというキーワードを使うかどうかといったところで、1度事務局のほうで預からせていただきまして、次回10月10日の前までに、こちらでまた改めて第三次案をお示ししまして、10月10日に成案をとという形で進めさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【平副委員長】 ということでよろしいでしょうか。

あと、議長として、井上さんが自分がどこかに選ぶという言葉が非常に大切だというふうに意見を言われているので、その点もひとつ検討させていただければと思います。

それでは、続けて行きたいと思いますが、基本理念の次が施策目標になります。これについてはどうでしょうか。

【三井委員】 A案と同じものをまた提案したいと思います。「しょうがいしゃが、あたりまえに暮らし、安心できる国立を目指します」。

【平副委員長】 ここは文章が前のほうに書かれていますので、黒板には書きませんけれども、よろしいでしょうか。

三井さん、これもしょうがいしゃがトップに来ているのは、趣旨としては先ほどと同じということ  
で理解してよろしいでしょうか。

【三井委員】 はい。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> <sup>かた こいけん</sup> ほかの方で御意見がありましたら。

【井上オブザーバー】 <sup>いのうえ</sup> <sup>おな</sup> 同じです。

【中山委員】 <sup>なかやまいいん</sup> <sup>じぶん だいじょうぶ</sup> 自分は大丈夫です。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> <sup>みつい</sup> <sup>おな</sup> 三井さんと同じということでしょうか。それとも、<sup>した だいにしあん</sup> 下の第二次案でいいということ  
でしょうか。

【中山委員】 <sup>なかやまいいん</sup> <sup>ないよう きほんてき</sup> <sup>まった もんだい</sup> <sup>みつい</sup> 内容の基本的なことについては全く問題ないんですけども、やはり三井さんのおっ  
<sup>いちり</sup> <sup>おも</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>かんが</sup> <sup>あま</sup> しゃっていることも一理あるなと思ひまして、自分もちょっと考えが甘かったなというところがあ  
<sup>すこ</sup> <sup>みつい</sup> <sup>はなし</sup> <sup>き</sup> <sup>おも</sup> ったので、もう少し三井さんの話を聞きたいと思ひます。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> わかりました。

【井上オブザーバー】 <sup>いのうえ</sup> <sup>みつい</sup> <sup>おな</sup> 三井さんと同じです。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> <sup>じむきよく</sup> <sup>さき</sup> <sup>おな</sup> <sup>さいどけんとう</sup> では、これも事務局に、先ほどのと同じように再度検討していただければうれしく  
<sup>おも</sup> <sup>じむきよく</sup> <sup>かんが</sup> <sup>かたち</sup> 思ひます。事務局に考えていただくという形でよろしいでしょうか。

<sup>こいけん</sup> <sup>いま</sup> <sup>い</sup> <sup>おも</sup> ほかにも御意見がありましたら今のうちに言っておきたいと思ひますが、よろしいですか。

【三井委員】 <sup>みついいいん</sup> <sup>あん</sup> A案でしょう。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> <sup>あん</sup> <sup>みつい</sup> <sup>だ</sup> <sup>じむきよく</sup> <sup>たいじ</sup> <sup>こうもく</sup> <sup>で</sup> A案が三井さんから出されている、事務局と対峙するというか、2項目として出て  
きているということになります。

【三井委員】 <sup>みついいいん</sup> <sup>あん</sup> <sup>あん</sup> B案とC案は。

【平副委員長】 <sup>たいらぶくいんちよう</sup> <sup>だ</sup> <sup>かた</sup> <sup>しきくもくひよう</sup> <sup>こうもく</sup> <sup>で</sup> BとCの出されている方——まず、施策目標については項目ごとに出ているんで

すけれども、最初が住まう／憩う、それから、今度変わりましたけれども、学ぶ／働くがBに来まして、Cで集う／遊ぶに変更して、次に知る／伝えるという形での項目になるということで、これについてはいかがでしょうか——わかりました。

ちょうど1時間ほどたちました。私はとても喉が渇いてしまっています。10分ほど休憩してよろしいでしょうか。

それでは、7時10分には始めたいと思いますので、休憩をとらせていただきたいと思います。

きゆうけい  
(休憩)

【平副委員長】素案の4ページから始めます。施策目標B

【井上オブザーバー】しょうがいしゃがみんなと一緒にの学校で学び、一緒にの社会で働くことのできるまち、くにたちをめざします。

【平副委員長】……という提案が出ております。御意見がある方は。

金子さん、よろしくお願ひします。

【金子委員】新しく出てきた中身なので、十分検討ができていないので、もし御意見があれば一括してお聞きしてしまつて、事務局のほうにまた調整をしてもらつとか、共有できる体制をつくつていただいて。きょう出て、この短い時間で十分考える時間もなく判断するのは非常に難しいのではないかと思うので、もし御意見があれば一括してお聞きしてしまつたほうがいかなと今思ひまし

た。

【平副委員長】 では、一括して三井さんから。また、三井さん以外にも、ここだけは訂正していた  
だきたいという意見等がありましたらおっしゃっていただけますでしょうか。

【三井委員】 次の施策目標C 集う／遊ぶについても、しょうがいしゃが地域で当たり前に出合  
い、関わり、育ち合い、誰もが地域で生きていけるまち・国立を目指します。

【平副委員長】 というふうになります。三井さん、Dもありますか。

【三井委員】 Dは奇跡的に第二次案と同じでございます。

Eがあります。Eは、福祉のまちづくりを進め、ソーシャルインクルージョン、みんな一緒のまち・  
国立を目指します。

【平副委員長】 ここにもまたソーシャルインクルージョンが入るといことでしょうか。

【井上オブザーバー】 施策目標E、みんな一緒のまちづくりを進めますにしたいです。

【平副委員長】 今、井上さんからは、7ページ、Eのところになります。みんな一緒のまちづくり  
を進めますという提案です。

【平副委員長】 何か提案はございますでしょうか。

では、施策目標についてほかに意見がありましたら、それを言っていただいて、また10月10日に  
なりますでしょうか。一括にして送っていただいて、検討していくという形にしたいと思いますの  
で、よろしく願いいたします。

【本多委員】 新しい案があるわけではないです。今、ほかの委員さんたちがおっしゃっていたみんな

な一緒の学校で学ぶとか、みんな一緒の社会というところなんですけれども、包括的にみんな一緒と

いう意味であればいいと思うんですけれども、現実的にみんな一緒というのが苦手な方も私の周り

には結構いらっやって、一緒の空間という意味ではないのかもしれませんが、そういう人たちが一緒

の空間にいることを余儀なくされるようなことではなく、当初井上さんがおっしゃったような、みんな

な一緒がいい人はそこを選び、そうでない人はそっちを選べるという選べる選択肢があるほうがいい

かなと私は思っています。

【平副委員長】 選べるというのがここでも出てきましたけれども、それをぜひ生かしていただけれ

ばと思います。ほかに御意見はございますでしょうか。

では、すごい宿題が僕たちに出てしまいましたけれども、頑張りたいと思います。

では、また新しい宿題をつくっていきたいと思いますが、10ページになると思うんですけれど

も、施策目標ごとの取り組み項目についてはどうでしょうか。

【井上オブザーバー】 施策目標Aの①、②、市が相談しやすいまちをつくとともに、福祉サービ

スを充実させます。市が住まいの確保をするとともに、地域で暮らしていくための支援を充実させ

ます。「市が」を入れてください。

【井上オブザーバー】 補足ですけれども、施策目標Aの①と②なんですけれども、その文章の前

に、国立市の「市が」を入れてほしいですということです。それ以外は変わっていません。

【平副委員長】 提案として、ページで言いますと10ページになると思うんですけれども、第二次案

の①「相談しやすいまちをつくとともに」という項目の前に、「市が相談しやすい」というふう

い  
入れるということですね。②も同じでしょうか。

いのうえ  
【井上オブザーバー】 はい。

たいらふくいんちょう おな だいにじあん す かくほ ささ  
【平副委員長】 同じ10ページ、第二次案の②「住まいの確保を支えとともに」というところで  
すけれども、「市が」というのをいれてはどうかというていあん  
提案でした。

ほかにありますでしょうか。

みついいいん いま す いこ しつもん くにたちし ちい いく そうだんばしょ  
【三井委員】 今、住まう／憩うですよ。質問なんですが、国立市は小さいのに幾つも相談場所が  
ひつよう おち ひと そうだん し い てま じむきょく しつもん  
必要なのか、主にどんな人の相談が、市に行くより手間がかかるとは、事務局に質問です。

じむきょく いま そうだんしえん おお わ しゅるい しゅるい つうじょう いっぱん  
【事務局】 今、相談支援は大きく分けると3種類ですけれども、あえて2種類でいうと、通常の一般

そうだん  
相談と、もう1つは、サービス等利用計画をつくるための相談という二通りがあります。

とりようけいかく そうだん ふくし つか そうだん  
サービス等利用計画をつくるための相談というのは、しょうがい福祉サービスを使うときに相談

しえんじぎょうしょ そうだん けいかく へいせい ねん ひつす  
支援事業所に相談をして計画をつくってもらおうというものになります。こちらは平成27年から必須

べつ ほうほう えら  
になっています。別の方法として、セルフプランを選ぶということもできます。ただ、セルフプラン

えら かた そうだんしえんじぎょうしょ けいかく そうだん えら かた りょうほう  
を選ぶという方と、相談支援事業所に計画をつくってもらおう相談をするという方と両方いら

けいかく そうだんしえんじぎょうしょ かん いま くにたちし たし かず おお  
っしゃいますので、計画をつくってもらおう相談支援事業所に関しては、今、国立市では確かに数は多

ぜんぶ やく こ じゅうそく じぎょうしょ なか そうだんいん  
く、全部で約10個になっていますけれども、それでやっと充足したか、その事業所の中の相談員さ

かず かぞ た じょうきょう  
んの数を数えるとまだちょっと足りないかなぐらいの状況になっています。

みついいいん じぜん みついきぬこ しつもん こた し き ちと  
【三井委員】 事前に三井絹子から質問をしまして、その答えが市から来ていまして、それに基づ

しつもん し きかん そうだんしえん せっち けんとう い  
いて質問してしまうんですけれども、市のほうでは基幹相談支援センター設置を検討していると言わ

れているんですが、これはどういうものなのかがよくわからないので、<sup>おし</sup>教えてください。

【事務局】 <sup>じむきょく</sup> 基幹相談支援センター<sup>きかんそうだんしえん</sup>というのは、<sup>いま</sup>今<sup>はなし</sup>お話<sup>を</sup>したサービス等<sup>とうりようけいかく</sup>利用計画<sup>をつくる</sup>をつくる相談支援<sup>そうだんしえん</sup>

<sup>じぎょうしょ</sup>事業所、それと<sup>いっばんてき</sup>一般的な<sup>そうだん</sup>相談<sup>う</sup>を受ける<sup>そうだんしえん</sup>相談支援<sup>じぎょうしょ</sup>事業所<sup>ちゅうかく</sup>の中核<sup>きのも</sup>になる<sup>そうだんしえん</sup>センター機能<sup>を持つ</sup>を持つ<sup>相談支援</sup>相談支援セン  
ターになります。

【三井委員】 <sup>みついいいん</sup> 具体的には<sup>くたいてき</sup>市<sup>し</sup>のどこかに<sup>たてもの</sup>建物<sup>が</sup>つくられるのか、<sup>へん</sup>その辺<sup>は</sup>どういふうになるんです  
か。

【事務局】 <sup>じむきょく</sup> センターという<sup>はこ</sup>箱<sup>ようい</sup>を用意<sup>すること</sup>することで<sup>センター</sup>センターになるという<sup>しつ</sup>質<sup>のもの</sup>のものではなくて、<sup>たいせい</sup>体制<sup>が</sup>が  
<sup>ととの</sup>整<sup>きかんそうだんしえん</sup>ったら<sup>な</sup>基幹相談支援センター<sup>な</sup>と名乗れるというものになるので、<sup>な</sup>では<sup>な</sup>名乗れ<sup>そう</sup>そうなところ<sup>が</sup>どこ  
かという<sup>く</sup>と、<sup>くに</sup>国立市役所<sup>しょうがい</sup>しょうがいしゃ<sup>しえんか</sup>支援課<sup>きかんそうだんしえん</sup>が<sup>いちばん</sup>一番<sup>ちか</sup>近い<sup>たいせい</sup>体制<sup>に</sup>になっており  
ます。

【平副委員長】 <sup>みつい</sup>三井さん、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、<sup>つぎ</sup>次に<sup>だいだい</sup>11ページ<sup>です</sup>ですけども、<sup>いま</sup>大体<sup>い</sup>よろしい<sup>す</sup>でしょうか。今<sup>いこ</sup>ので<sup>い</sup>言<sup>います</sup>と、<sup>す</sup>住<sup>まう</sup>まう／<sup>いこ</sup>憩<sup>う</sup>う  
うのところ<sup>す</sup>です。10ページ、11ページに、<sup>いこ</sup>住<sup>まう</sup>まう／<sup>いこ</sup>憩<sup>う</sup>うの<sup>こうもく</sup>項目<sup>ばん</sup>が<sup>はい</sup>5番<sup>まで</sup>まで入<sup>って</sup>っています。

【井上オブザーバー】 <sup>いのうえ</sup> ④、⑤、<sup>い</sup>しょうがい<sup>こ</sup>を入れ<sup>ちいき</sup>ます。④<sup>い</sup>しょうがい<sup>こ</sup>のある<sup>ちいき</sup>子ども<sup>が</sup>が<sup>す</sup>ずっと<sup>ちいき</sup>地域<sup>で</sup>で  
<sup>せいかつ</sup>生活<sup>じゅうじつ</sup>できる<sup>い</sup>サービスを<sup>い</sup>充<sup>ま</sup>実<sup>さ</sup>させ<sup>ま</sup>すが<sup>い</sup>いい<sup>す</sup>です。⑤<sup>い</sup>しょうがい<sup>い</sup>しゃ<sup>いのち</sup>の<sup>まも</sup>命<sup>ぼうさい</sup>を守る<sup>たいさく</sup>防災<sup>はや</sup>対策<sup>すす</sup>を<sup>い</sup>早<sup>く</sup>進<sup>め</sup>め  
ます<sup>い</sup>が<sup>い</sup>いい<sup>す</sup>です。

【平副委員長】 <sup>い</sup>⑤<sup>い</sup>につ<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>して<sup>は</sup>、<sup>ぼうさい</sup>防災<sup>たいさく</sup>対策<sup>まえ</sup>の前に、<sup>い</sup>しょうがい<sup>い</sup>しゃ<sup>いのち</sup>の<sup>まも</sup>命<sup>を守る</sup>という<sup>い</sup>の<sup>つけ</sup>つけ

たほうがいいのではないかとこの御意見でした。

【三井委員】 第二次案の④なのですが、この文章を、しょうがいしゃのある子どもが地域で育ち、  
住み続けるための福祉サービスを充実させますに変えたいですと。

⑤「防災対策を進めます」に関してなのですが、災害時しょうがいしゃが困らないよう、しょうがい  
しゃとともに防災対策を早急に進めますとしたいですと。

【平副委員長】 災害時しょうがいしゃが困らないようにしょうがいしゃとともにでしょうか。

【三井委員】 防災対策を早急に進めますです。

【平副委員長】 早急も入るそうです。

【三井委員】 このことに関しても、市に事前の質問をしました。その中で、市内に防災センターと  
いう施設があります。これがどのような役割を持ち、何をするために使うのかと、日常的にはどのよ  
うに利用されていますかという質問を出したところ、昭和56年3月に出された国立市地域防災セン  
ター設置条例という条例の一部をお答えとしていただきましたが、結局何をしているかということ  
では、日常的に自主防災組織の活動拠点として、地域のコミュニティ活動の拠点として利用されて  
いますというお答えでした。これに関して、今現状、市内に5つあるそうですが、しょうがいしゃが  
使えるような建物はほとんどないんですね。

【三井委員】 私たちが所属しています国しょう協では、今、防災訓練に車椅子体験というのでわか  
わりをもたせてもらったり、二中、五小、三小とか、そういうところの避難所訓練マニュアルみたい  
なものにも関係させてもらっているんですけども、もともと防災センターは、ずっと前の谷清さん

という消防庁出身の方が市長になったときにできたものなんですけれども、実際に防災センター

自体は車椅子の人間が行っても使えないようなつくりになっているので、これは今後の計画の中で少

しそういう変化が出たらいいなと思う部分があります。実際に過去では、防災に関しては、私たちの

国しよう協というのがいろいろな形でかかわりを持っているのは事実です。

【平副委員長】 という御意見がありましたので、参考にしてください。

それでは、次に行きたいと思います。12ページ、施策目標B 学ぶ／働くについてはどうでしょうか。

【井上オブザーバー】 ①みんな一緒に地域を実現するための教育環境をつくります。②地域で暮らすための経済的な支援を充実させます。

【平副委員長】 後半のほうは、B案にある「地域で暮らすための支援を」というのを入れていくということだと思えます。

【三井委員】 ちょっと長くなりますが、よろしいでしょうか。第二次案の文章というか、あれを変えたいと思っています。あらかじめ文章を用意してきていますので、ちょっとお待ちください。

【三井委員】 施策目標Bの取り組み項目①「個別の教育的ニーズに最も的確に答える環境をつくります」という項目の文言を、ソーシャルインクルージョンを目指す本来の意味の——これはもと

の出したA案ですね。これがまた採用されないということできたので、もう1度考えました。インクルーシブ教育システムの構築を目指しますというふうに変えたいです。

今、国立市でもインクルーシブ教育をうたってやっているが、真のソーシャルインクルージョンで

はない。養護学校義務化が進み、<sup>ようごがっこう ぎむ か すす</sup> 区別、<sup>くべつ</sup> 選別がなされ、<sup>せんべつ</sup> しょうがい児は普通学級から姿を消した。<sup>じ ふつうがっきゅう</sup> <sup>すがた け</sup>

アリバイのように特別支援学級が<sup>とくべつしえんがっきゅう</sup> つくられている。昔は教室を飛び出す子、<sup>むかし きょうしつ と だ こ さわ こ</sup> 騒ぐ子、<sup>こ</sup> いろいろな子

がいた。ごちゃまぜの中でみんな生きてきた。だから、<sup>なか い</sup> 心も豊かに<sup>こころ ゆた そだ わたし</sup> 育ち、私たちがしょうがいしゃに

理解を示してくれた。しかし、<sup>りかい しめ</sup> 現在の教育は真<sup>げんざい きょういく ま ぶた</sup> 二つになっている。それゆえに、この言葉にしたい。<sup>ことば</sup>

私たちが<sup>わたし めざ しん</sup> 目指す真のインクルージョンとは<sup>はな</sup> どのようなものか話してもらいます。

【三井委員】 <sup>みついいいん</sup> ここは<sup>かんが</sup> すごく<sup>しゅくだい けっこうむすか</sup> 考えて、<sup>へいせい ねん がつ にち</sup> 宿題は結構難しかったんですが、<sup>へいせい ねん がつ にち</sup> まずは平成19年4月1日

に<sup>もんぶかがくしょう とくべつしえんきょういく すいしん</sup> 文部科学省が特別支援教育の推進についてという<sup>つうたつ だ</sup> 通達を出しています。それはたくさんありますの

で、<sup>いま よ</sup> 今は読めませんが、<sup>つうたつ だ</sup> その通達を出しています。その通達に基づいて<sup>つうたつ もと わたし しら おおさか</sup> 私たちが調べたのは、大阪の

<sup>ひがしおおさかし</sup> 東大阪市というのがあります。その大阪の東大阪市というところでは、<sup>おおさか ひがしおおさかし</sup> まず<sup>しょうがっこう しょうがっこう こ</sup> 小学校なら小学校の子

どもたちがどこに行くのかということについて、<sup>い</sup> 幼稚園、<sup>ようちえん しょうがっこう ちゅうがっこう こうとうがっこう かん</sup> 小学校、中学校、高等学校という感じで、

<sup>とくべつしえんがっこう</sup> 特別支援学校というの<sup>あと</sup> は後のほうになる。東大阪市では<sup>ひがしおおさかし ほごしゃ ほんにん いし せんちよう</sup> 保護者と本人の意思を尊重するというこ

で、<sup>わたし いぜん</sup> 私たちも以前に「みんなの学校」という映画を<sup>がっこう えいが</sup> やったことがあるんですが、これは<sup>ひがしおおさかし</sup> 東大阪市では

<sup>おおさか はなし</sup> ありませんけれども、大阪の話です。

その中で、<sup>なか わたし かん ひじょう</sup> 私たちが感じるには非常に<sup>がっこう おおさか なか</sup> すばらしい学校が大阪の中にできている、そのシステムを

<sup>ひがしおおさかし</sup> 東大阪市がつくっているという<sup>かん</sup> 感じがしたので、<sup>しら</sup> ちょっと調べてみました。ここに<sup>しょうがっこう</sup> ちょこっとありま

<sup>ぜんぶ</sup> すけれども、全部にわたらなくて<sup>もう</sup> 申しわけないんですが、<sup>み おも</sup> 見ていただければと思います。特別支援教育

についての<sup>こ</sup> お子さんに<sup>き</sup> こんな気がかりなことがあったらという<sup>なか か</sup> チラシがあります。その中で書いてあ

るのは、<sup>しょうがっこう なか と べしえんきょういく おこな</sup> やっぱり小学校の中で特別支援教育が行われる、<sup>なに もんだい</sup> 何か問題があったら<sup>しょうがっこう なか</sup> 小学校の中

う形<sup>かたち</sup>で、小学校<sup>しょうがっこう</sup>なり、学校<sup>がっこう</sup>の中で何か<sup>なか</sup>やる。私<sup>わたし</sup>はよくわからなかったんですけども、学校園<sup>がっこうえん</sup>とい

うようなくくり<sup>ひがしおおさかし</sup>があって、東大阪市<sup>こう</sup>だと88校<sup>れんけい</sup>あるんですけども、連携<sup>なに</sup>をとって何か<sup>なに</sup>やっている。

最終的<sup>さいしゅうてき</sup>に今<sup>いま</sup>、親<sup>おや</sup>の方がどこ<sup>かた</sup>を選ぶ<sup>えら</sup>かというのがあるわけですね。そのどこ<sup>えら</sup>を選ぶ<sup>えら</sup>かというのも

東大阪市<sup>ひがしおおさかし</sup>は尊重<sup>そんちょう</sup>していくという形<sup>かたち</sup>になっています。

ちょっとはしょってしまう感じ<sup>かん</sup>ですけども、国立<sup>くにたち</sup>のほうで、永見市長<sup>ながみしちょうめい</sup>名<sup>くにたちしきょういくだいこう</sup>で国立市教育大綱<sup>くにたち</sup>という

のが出て<sup>で</sup>います。その中<sup>なか</sup>に4番目<sup>ばんめ</sup>、インクルーシブ<sup>しゃかい</sup>社会<sup>こうちく</sup>の構築<sup>む</sup>に向け、その基礎<sup>きそ</sup>づくりとして、特別<sup>とくべつ</sup>

支援教育<sup>しえんきょういく</sup>の更なる推進<sup>さら</sup>を図るとともに、しょうがいのある児童生徒<sup>すいしん</sup>としょうがいのない児童生徒<sup>はか</sup>がで

きる限り同じ場<sup>かぎ</sup>で共に学ぶ<sup>おな</sup>ことを追求<sup>とも</sup>するインクルーシブ<sup>まな</sup>教育システム<sup>ついきゅう</sup>の構築<sup>きょういく</sup>を目指す<sup>こうちく</sup>と掲げ<sup>めざ</sup>てあ

ります。そのピラ<sup>か</sup>の2ページ目<sup>め</sup>を見ていただく<sup>み</sup>とわかるか<sup>おも</sup>と思いますけども、そのインクルーシブ

教育システム<sup>きょういく</sup>の構築<sup>こうちく</sup>を目指す<sup>めざ</sup>という個別名<sup>こべつめい</sup>にしたいということです。

国立<sup>くにたち</sup>の場合は、この文章<sup>ばあい</sup>だとどうも最初<sup>ふんしょう</sup>から分かれて<sup>さいしょ</sup>いる感じで、その分かれて<sup>わ</sup>いる感じからどう

やって一緒<sup>いっしょ</sup>になっていくか<sup>か</sup>というような書き方<sup>かた</sup>なんです。自分<sup>じぶん</sup>の家<sup>いえ</sup>で印刷<sup>いんさつ</sup>してしまっただけなんですけれど

も、例えば大阪府<sup>たと</sup>が福祉教育指導資料<sup>おおさかふ</sup>というものを<sup>ふくしきょういくしどうしりょう</sup>出して<sup>だ</sup>いて、「ぬくもり」といって、こんな立派<sup>りっぱ</sup>

なものを、どうやったらいろいろ<sup>せんせい</sup>なことを先生<sup>こ</sup>たちが子ども<sup>おし</sup>に教えられる<sup>おおさかから</sup>だろうかと。大阪府<sup>おおさかから</sup>という

と松井さん<sup>まつい</sup>だから、こんなことをや<sup>おも</sup>っていないかな<sup>おおさかから</sup>と思うんですけども、大阪府<sup>おおさかから</sup>自体としてはこん

な感じ<sup>かん</sup>でや<sup>まな</sup>っていて、「ともに学<sup>そだ</sup>び、ともに育<sup>かん</sup>つ」という感じ<sup>かた</sup>のやり方<sup>かん</sup>をしています。

何を言<sup>なに</sup>いたいか<sup>い</sup>というと、特別支援教育<sup>とくべつしえんきょういく</sup>が普通<sup>ふつう</sup>の地域<sup>ちいき</sup>の学校<sup>がっこう</sup>でもできる<sup>おも</sup>んだと思<sup>くにたち</sup>っていて、国立<sup>くにたち</sup>の

場合<sup>ばあい</sup>だったら、スマイリースタッフ<sup>おおさかから</sup>というのがそれ<sup>おも</sup>なのか<sup>くにたち</sup>どうか<sup>おも</sup>わかりませんが、まずは

いちばんさいしょ えら ばしょ  
一番最初に選ぶ場所をどこにするかということ、筋を通したいというか、地域の小学校、中学校

はい  
に入っていく、そこから始まっていくと。先ほどどなたかがおっしゃっていましたが、最初か

わ  
ら分かっているわけではなくて、最初は分かれなくて生まれてくるわけですし、そこから始まってい

わたし いっしょ つか  
くというふうに、私たちはみんな一緒というふうに使っていますけれども、つい最近も、市民まつり

わたし だんたい で  
に私たちも団体として出るときに、統一目標としてみんな一緒と出したら、3番目まで残った言葉

かたち こうもく さき もう あ  
なんですけれども、そういう形でこの項目は、先ほど申し上げたように、インクルーシブ教育シ

こうちく めざ  
ステムの構築を目指しますというふうに入りたい。これは教育大綱に載っていることなので、余りぶ

おも  
れがないのではないかと考えております。

【平副委員長】 きょういくたいこう しちょう  
教育大綱というのは、市長のということですか。

みついいいん  
【三井委員】 そうです。総合教育会議というのが27年から始まったらしいんですけど、今回

ながみ  
の永見さんのものです。

【平副委員長】 ながみ い  
永見さんがそう言っているそうです。

ごいけん  
Bについては、御意見はそれだけでよろしいでしょうか。

ほんだいいいん  
【本多委員】 インクルーシブ教育については私も賛成なんですけれども、できるだけ優しい言葉

おも  
にしてもらおうとありがたいなと思っています。せっかく当事者の委員の方が来て、これだけ事前に資料

はいふ  
を配付したりして、いろんな配慮をしてやっていく中で、やっぱりインクルーシブ教育システムの

こうちく  
構築というのは、言葉としてはちょっと難しいのではないかという感じを受けていますので、全体的

ことば ひょうき  
にわかりやすい言葉の表記があったほうが良いなと思いました。

それから、<sup>さいしょ みつい</sup>最初に三井さんがおっしゃったところで、<sup>わたし</sup>私とはちょっと<sup>いけん ちが</sup>意見が違うなと思ったところ  
が1つあります。<sup>むかし ふつう がっこう</sup>昔は普通の学校にお部屋を飛び出してしまう子もいて、<sup>こ</sup>そういう子たちも<sup>こ</sup>含めてみ  
んな一緒に生きてきたというふうにおっしゃっていて、<sup>たぶん</sup>多分そういう<sup>じょうきょう</sup>状況だったと思いますが、そ  
れが<sup>ひと</sup>つらかった人もいたのではないかと<sup>わたし かんが</sup>私は考えています。そのお部屋の中<sup>へ や なか</sup>にいさせられることが  
つらくて<sup>と</sup>飛び出していってしまうような子たちについて<sup>こ</sup>やっぱり<sup>はいりょ ひつよう</sup>配慮が必要なのではないかと思うの  
で、<sup>ぼうとういけん もう あ</sup>冒頭意見を申し上げたように、それを<sup>せんたく</sup>選択できるという幅<sup>はば</sup>があればいいと思うんですけれども、  
<sup>いっしょ きょうよう</sup>みんな一緒に強要されるのは<sup>ちが</sup>やっぱり<sup>き</sup>違うような気がします。

<sup>みついいいん</sup>【三井委員】 <sup>いま ひがしおおさかし がっこうきょういくきほんもくひょう</sup>今の東大阪市の学校教育基本目標というのがあります。さっきの<sup>きほんりねん</sup>基本理念みたいな  
ものと<sup>おな</sup>同じですけれども、「<sup>こ</sup>すべての子どもに <sup>い よろこ</sup>生きる喜びと <sup>ちから</sup>あすをつくる力を」という<sup>みじか かたち</sup>短い形  
で<sup>ひょうげん</sup>表現されています。先ほど<sup>さき</sup>教育大綱を<sup>きょういくたいこう ひ</sup>引きましたけれども、<sup>こ</sup>ここから出ているんだよということ  
で<sup>はな</sup>お話しして、だから、<sup>ながみしちょう ぶんしょう か</sup>永見市長に<sup>おも</sup>文章を書いていただく<sup>おも</sup>ほうがいいかなと思ったりしています。

<sup>たいらふくいんちよう</sup>【平副委員長】 <sup>じむきょく ちから</sup>事務局が力を<sup>が</sup>つけていただいて、<sup>がんば</sup>頑張ってもらいたいと思いますけれども、<sup>おも</sup>ほか  
はどうでしょうか。

<sup>かねこいいん</sup>【金子委員】 <sup>いま</sup>今、<sup>と く こうもく み</sup>ここの<sup>み</sup>取り組みの項目だけを見てるので、<sup>おも</sup>どうしてもそこに<sup>おも</sup>ひっかかってしま  
うんですけれども、<sup>ほんしりよう</sup>本資料の<sup>み</sup>ほうを見ていただくと、<sup>じぜん くば</sup>きょう事前に<sup>おも</sup>配っていた<sup>おも</sup>29ページな  
んですけれども、「<sup>こべつ きょういくてき</sup>個別の<sup>もつと てきかく こた</sup>教育的ニーズに<sup>かんきょう</sup>最も<sup>か</sup>的確に<sup>した</sup>応える<sup>おも</sup>環境をつくり<sup>おも</sup>ます」と書いてある下に、  
「<sup>きょういく</sup>インクルーシブ<sup>すいしん</sup>教育システムの<sup>きょういくかんきょう</sup>推進」「<sup>せいび</sup>教育環境の<sup>なかみ</sup>整備」というふう<sup>おも</sup>に、その<sup>おも</sup>中身については、  
<sup>ぜんたいぞう</sup>全体像としては<sup>もちろ</sup>ちゃんと<sup>たぶん</sup>網羅<sup>うえ</sup>されていて、<sup>ことばじたい すこ</sup>多分<sup>ことば</sup>その上の<sup>おも</sup>部分の<sup>おも</sup>言葉自体は<sup>おも</sup>少し<sup>おも</sup>わかりやすい<sup>おも</sup>言葉と

ということでこういうふうにかかっているのかなと実は見ている、おっしゃっていることと書いてあることは全く一緒かと思っているんですけども、ただ、一遍に見ていくというのが難しく、1つずつ見ていってしまうと、この下の実際に取り組みなくては行けないという具体的なことをタイトルにしなくては行けないという話になってくるとすごく話がごちゃごちゃしてきてしまうので、その部分を全体的に何となくうまく見ていけると、その上でタイトルはこういう言葉がいいよねというような見方をするといいのかと感じました。

【平副委員長】資料が今のところ2つあるんですけども、1つ目で今突っかかっているんですけども、資料としては上のほう、それから下のほうとしてありますので、全体として考えていくのも1つの方法ではないかという貴重な意見をいただきました。

では、御意見をいただいたということでよろしいでしょうか。

それでは、13ページになりますけれども、大まかなところで御意見がありましたらどうぞ。

【三井委員】施策目標Cは、二次案のところに移動しやすいバリアフリーのこのを入れる、まちづくりを進めますと。

【平副委員長】A案にも出ていましたバリアフリーを少し検討していただきたいという御意見です。

ほかにはございますか。

済みません、御意見をいただいたということで、先のほうへ行ってよろしいでしょうか。では、施策

目標Dになります。

【井上オブザーバー】 ③しょうがいがあっても自分で意思を決定できるよう支援をしますがいいます。

【平副委員長】 自らというところを自分をに替えるということでしょうか。

【井上オブザーバー】 「出来る限り自ら」を抜いて、自分でになっています。

【平副委員長】 そうすると、しょうがいがあっても自分で意思を決定できるということだそうですね。

【三井委員】 今、実は後戻りもしたいんですが、とりあえず施策目標Dの今、井上さんのおっしゃったところと同じ部分ですが、施策目標Dの取り組み項目、③どんなしょうがいがあっても自らの意思を決定できるよう支援を充実させますと変えたいです。そして、「出来る限り」を削除しまして、自らの意思を決定できるよう支援を充実させますと変えたいということです。

【平副委員長】 「出来る限り」については井上さんと同じように削除するという方向で、また、三井さんのほうは、「自ら」の後にのを入れる、自らの意思を決定するというふうに明確にしていこうということだと思います。

【三井委員】 それと、施策目標Cのほうに戻させていただいてもいいでしょうか。

【平副委員長】 はい。

【三井委員】 ②「余暇・レクリエーション活動、文化活動の充実をさせます」という項目の中の余暇という言葉に今ひっかかりを感じていますということで、余暇という言葉をここで削除したいです。

レクリエーション活動、文化活動の充実をさせますというふうにしたいです。

理由として、余暇というのは余る暇という言葉ですが、働いていることが前提になっていると思わ

れますと。働く、働かないは別として、いろいろなことを楽しめるため、また好きなことを選択し

て楽しみを見つけるということの支援であると理解したいと思います。

【平副委員長】では、まずCについては意見が加わったということで、再度Dに戻りますが、ほか  
に御意見はございますでしょうか。

それでは、施策目標のEに移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【井上オブザーバー】③合理的配慮をちゃんとやります。④しょうがいしゃが暮らしやすいまちづ  
くりを進めますです。

【平副委員長】④のところにつきましては、前にも出ましたが、誰もがというところをしょうがい  
しゃがになるということです。

【三井委員】③「合理的配慮の提供を進めます」の文言を、提供を徹底に変えてくださいとのこ  
とです。合理的配慮の徹底を進めます。そして、④は井上さんのおっしゃったことと同じです。

【平副委員長】③につきましては、A案の最初の意見ということで、もう1度検討していただき  
たいということです。

では、Eですけれども、16ページに移ってよろしいでしょうか。

【井上オブザーバー】⑥ネットワークづくりを確実に進めますです。説明をします。お願いします。

【井上オブザーバー】ネットワークづくりの質問を事務局に事前にしたんですけれども、こちらの

内容では3つの団体、事業所、当事者、あとボランティア団体の人たちのグループのネットワークを

ひろ はなし き ぐたいてき ちゅうしん だんたい  
広げていきたいというお話を聞いたんですけども、具体的にどこが中心になって、その1団体ず

かたち ひろ み たと し  
つがどういう形でネットワークを広げていくのかなというものがすぐ見えなくて、例えば市が

ちゅうしん し はっしん どうじしゃ かた じぎょうしょ かた かた  
中心になって市が発信したものを、では当事者の方、事業所の方、ボランティアグループの方という

すこ み たと し  
のをどういうふうにまとめていくものになるのかということが少し見えなかったので、例えば市なら

し ば も ば も どうじしゃ かた だいひょう じぎょうしょ かた だいひょう  
市がそういう場をきちんと持つ、その場を持つために当事者の方の代表とか、事業所の方の代表、

たと しゃきょう かた ちゅうしん ば  
例えばボランティアだったら社協の方たちが中心になってきちんとそういう場をつくるというふう

かくじつ かたち たいせい すす おも  
な確実な形の体制をつくっていかないと、ネットワークづくりというものも進まないかなと思った

い み ぶく かくじつ ことば い  
ので、そういうものをきちんとしてもらいたいという意味も含めて、確実にという言葉を入れました。

たいらふくいんちよう かくじつ いまい すこ ぐたいてき ぶぶん  
【平副委員長】 確実ということですけども、今言われたように、もう少し具体的な部分があった

かくじつ こいけん  
ほうが確実にネットワークづくりにできるのではないかという御意見でした。

いちおうさいしょ だいにじあん そあん よこが で  
一応最初の第二次案につきましての素案が、横書きのものが出ているんですけども、きょうはこ

みつい  
れだけしかできなかつたんですけども——三井さん、ありますか。

みついいいん いま いのうえ どうよう じつもん みついいいん いま いのうえ こいけん みついいいん  
【三井委員】 今の井上さんと同様の質問を三井さんもしたくて、また、今の井上さんの御意見に三井

さんせい  
さんも賛成ですとのことです。

たいらふくいんちよう かくにん す そあん こいけん  
【平副委員長】 確認をとらずに、済みません。この素案につきましてほかに御意見はございますで

しょうか。

じむきょく わたし き じ ほんとう ぶめいりよう じ  
事務局、私の議事が本当に不明瞭で、なかなかできなかつたんですけども、8時になってしまっ

たんですが、どのようにすればよろしいでしょうか。

【事務局】 きょうはもうこれで。

【平副委員長】 皆さん、これでよろしいでしょうか。

ちょっとお願いなんですけれども、井上さんが自分の御意見を皆さんに確実にするために、この資料をつくっていただいたので、ここまで行けなかったんですけれども、もし提案等がありましたら、一覧ができる、また提案のもとにできるものがあればうれしいなと思っておりますけれども、どうでしょうか。

では、きょうはこれで終わりたいと思うんですけれども、次の日程等のことがございますので、まず確認ですけれども、次は10月10日ということでよろしいでしょうか。午後6時、同じ会場になると思えます。

それで、事務局から提案が1つ、10月の次の日程についても皆さんに御意見を伺いたいということとなんですけれども、事務局から説明していただければと思えます。

【事務局】 それでは、次々回の日程調整をお願いします。

先ほど平副委員長からもございましたが、次回は10月10日の火曜日午後6時から、会場はこちらの市役所3階の会議室となりますので、よろしく願いいたします。

内容といたしましては、本日の議論を踏まえた修正案の三次案になります。それをできる限り早い段階で皆様のお手元に送付をさせていただくようにしたいと思います。10月10日は、あらかじめお知らせのとおり、中間答申の最終的な案を取りまとめていただく会ということになりますので、あらかじめ御予定方をよろしく願いいたします。

じじかい についていちょうせい じかい がつ か あと いけん き かい  
次々回の日程調整になりますが、次回の10月10日の後に、意見を聞く会、それとパブリックコメ

ほしゅう よてい がつ くにたちしぎかい ちゅうかんほうこく かたち よてい  
ントの募集なども予定しております。また、12月の国立市議会でも中間報告というような形を予定

しております。それらを踏まえまして、最終答申に向けた最後の委員会を1月に開催させていただき

たいと考えております。つきましては、日程がかなり先になって恐縮ですが、委員の皆様には来年

がつ こよてい かくにん おも  
1月の御予定を確認させていただければと思います。

こうほび がつ にち しゅう にち げつまつ あいだ かいさい  
候補日といたしましては、1月22日からの週、31日の月末までの間で開催させていただきたい

かんが ほんじつ こつごう わたいいんちょう ごけつせき あいだ いいん みなさま こうほび  
と考えています。本日、御都合により綿委員長が御欠席ですので、この間で委員の皆様から候補日

しほ こ ごじついいんちょう さいしゅうてき についていちょうせい あと じかい がつ か  
を絞り込んでいただき、後日委員長と最終的に日程調整をさせていただいた後、次回の10月10日

いいんかいがいさいじ について ごれんらく おも こと  
の委員会開催時に日程の御連絡をさせていただければと思います。いずれにいたしましても、午後6

じ かいさい よてい おも いいん みなさま こつごう かくにん おも  
時からの開催を予定したいと思っておりますので、委員の皆様の御都合を確認させていただきたいと思いま

らいねん はなし きょうしゆく じゅん ひ うかが おも こつごう  
す。来年の話になってしまって恐縮ですが、順に日にちで伺いたいと思っております。御都合の

わる ひ きょしゆく し おも ねが  
悪い日にちについてのみ拳手でお知らせいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

いのうえ あと し  
【井上オブザーバー】 すぐわかりません。後でお知らせしてもいいですか。

じむきょく いのうえ いま あと はなし かいじょうとう  
【事務局】 井上オブザーバーから、今わからないので後でというお話だったんですが、会場等を

お つごう いま はんい こうほび さいしゅうかくてい  
押さえない都合もあるので、今おわりの範囲で、候補日ということですので、最終確定ということ

ではないので、まず拳手をお願いしたいと思います。

についていちょうせい  
(日程調整)

じむきょく いま いいん みな ごしゅつせき ひ じょうだい ぎゃく  
【事務局】 今、委員の皆さんが御出席いただける日がほぼないという状態なので、そうしますと逆

に繰り上げて、1月15日月曜日はいかがですか——中山委員、このあたりはまとめて長期的に御都合  
が悪いようですか。

【中山委員】 木曜日と金曜日はいろいろ予定が入っていて結構忙しいので、ちょっと無理があるん  
ですけれども、状況によっては合わせようかなと思っているんです。

【事務局】 中山委員が厳しいのは木曜日と金曜日で、ほかの場合であれば御都合をつけられる可能性  
があると。

【中山委員】 そうですね。火曜日と水曜日であればという感じではあるんです。

【事務局】 わかりました。それ以外に特定の曜日で代わりの曜日というのはありますか——水曜日  
ですね。では、水、木、金を外して調整させてください。今聞いた中でも、皆さんオーケーですとい  
日にちが半月にわたってないという状態だったので、次回候補日を挙げて、必要があれば再度調整  
をするといったところで進めさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

【本多委員】 開催要項というのが皆さんのお手元に、同じものが多分届いていると思うんですけれ  
ども、きょうのように意見がたくさん出たときに、やっぱりペーパーのような資料がないと、耳で聞  
いただけでは内容を追っていけないので、私もなかなか理解できないんです。確かにここに8月24

日と書いてあって、見落としてしまうことも全くないとは言えないと思うんです。なので、事前に

資料が出てくれば井上さんにとってもわかりやすいので、それがいいんですが、事前には難しくて

も、やっぱり当日にはペーパーで出てくることのできるぐらいの資料の準備をしていただけるといい

のかなと思うので、私たちも意見があるときはできるだけ可視化できるような形にしたいので、お

たが いいん みな きょうりよく あ だいじ おも ねが おも  
互いの委員の皆さんが協力し合うことが大事なと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っ  
て  
います。

【平副委員長】 きちよう いけん おも みな しっこう ぎじ すみ すす  
とても貴重な意見だと思います。ぜひ皆さんでこれを実行して、議事を速やかに進  
めていきたいと思ひますので、御意見等がありましたら皆さんに配付できるよう、可視化できるよ  
う  
によろしくお願ひいたします。

なが あいだ じかい がつ かごこし  
それでは、長い間ありがとうございました。次回は10月10日午後6時からということで、よろし  
くお願ひいたします。きょうはこれで終わりたいと思ひます。